MAL-14｜採点・面接ガイド

Motor Activity Log / AOU：使用頻度 / QOM：動作の質

この用紙は専門職が面接で使用する記録補助です。自己記入だけで完了せず、採用する版・手順を確認してください。項目はSTROKE LAB既存公開用紙の14項目に合わせています。

0〜5点で記録。UAB手順では0.5点刻みも使用できます。

点	AOU：どのくらい使ったか	QOM：使ったときの動き
0	使わない	その活動では使わない
1	ごくまれに使う	動かすが、活動の助けにならない
2	時々使うが、多くは非麻痺側	多少役立つが、介助・強い遅さ・困難がある
3	発症前の約半分の頻度	役立つが、遅さ・努力を伴う
4	発症前の約４分の３の頻度	ほぼ通常どおりだが、速度・正確さが劣る
5	発症前と同じ頻度	発症前と同じように使える

・評価期間を日付で固定する。通常の初回・追跡評価は過去１週間が目安。介入中は採用手順に従う。

・UABの通常手順はAOUを全項目確認した後にQOMへ進む。AOUが０の項目ではQOMを別に尋ねない。

・「使わなかった」と「該当しない」は区別する。麻痺による不使用を安易に除外せず、理由・根拠を記録する。

・本人回答と家族回答は別用紙に記録。同じ版・回答者・期間・生活条件で比較する。

項目出典：https://www.stroke-lab.com/wp-content/uploads/2024/08/MAL-PDF.pdf
出典：UAB CI Therapy Research Group. Motor Activity Log Manual (2011).
実施手順：https://www.uab.edu/citherapy/images/pdf_files/CIT_Training_MAL_manual.pdf

参考日本語表記・記録用／検証済み日本語版の転載ではありません。

MAL-14｜評価記録 1〜14

各項目の点数と、実際の生活場面・不使用／除外理由を記入

ID／氏名：　　評価日：　　年　　月　　日

対象期間：　　月　　日 〜　　月　　日　　回答者：本人・家族（　　）

麻痺側：右・左　発症前利き手：右・左・両側　評価者：

No.	活動	AOU	QOM	場面・不使用／除外理由
1	本・新聞・雑誌を持って読む			
2	タオルを使って顔や身体を拭く			
3	グラスを持ち上げる			
4	歯ブラシを持って歯を磨く			
5	髭剃り・化粧をする			
6	鍵を使ってドアを開ける			
7	手紙を書く・タイプを打つ			
8	安定した立位を保持する			
9	服の袖に手を通す			
10	物を手で動かす			
11	フォークやスプーンを把持して食事をとる			
12	髪をブラシや櫛でとかす			
13	取っ手を把持してカップを持つ			
14	服の前のボタンをとめる			

AOU・QOM：0〜5（採用手順により0.5刻み）／除外は「除外」と理由を記録。

空欄＝未確認。０点と混同しない。集計対象・除外の判断は採用マニュアルに従う。

合計：AOU　　QOM　　集計対象項目数：

平均：AOU　　QOM　　除外項目番号：

参考日本語表記・記録用／検証済み日本語版の転載ではありません。

MAL-14｜集計と生活目標

点数の変化と、生活で変わったことを一緒に残す

ID／氏名：　　評価日：　　年　　月　　日

採用した版・マニュアル／回答支援の方法

生活環境・介助・装具など前回から変わった条件

平均点 ＝ 各尺度の合計 ÷ その尺度の集計対象項目数

０点は集計に含める。除外は理由を確認して分母から除く。未確認を勝手に補完しない。

尺度	合計	集計対象項目数	平均（0〜5）
AOU			
QOM			

除外項目番号・理由／前回との分母の違い：

生活目標：いつ・どこで・どの活動に・どのように手を使うか

実践方法・必要な介助／安全面（痛み・疲労・転倒など）

評価日	AOU平均／項目数	QOM平均／項目数	生活での変化

低得点だけで学習性不使用と診断しない。AOUとQOMの大小だけで能力や介入方針を決めず、動作観察・本人の目標と合わせて判断する。

参考日本語表記・記録用／検証済み日本語版の転載ではありません。